



未来パレットだより

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」を意味する英語Education for Sustainable Developmentの頭文字をとったものです。

～三隅佳子さんを偲んで～

三隅さんとの出会いは2002年から03年にかけて何回か催されたESD-J(国連持続可能な開発のための教育の10年推進会議)設立の準備会合ではなかったかと思えます。その後、2003年6月のESD-J設立総会でアジア女性交流・研究フォーラムが正会員になったのを契機に、三隅さんはESD-Jの運営委員(その後、理事に名称変更)にご就任されました。以来、16年間にわたって私は三隅さんと一緒にESD推進の活動に取り組んできました。

つまり三隅さんは共に持続可能な社会を希求するかけがえのない同志でした。数年前、私は三隅さんにライフストーリーに関するインタビューをする機会がありました。その際に謙遜しながらも語ってくれた女性運動や環境運動の取り組みに感動したことを今も覚えています。いつも前向きで、おしゃべりで、励ましてくださった三隅さん。いつしか私は三隅さんとお会いするのが楽しみにしていました。三隅さんは私にとって永遠のお手本です。

三隅さんのような大人?になりたいと今も思っています。

ESD-J代表理事/ESD活動支援センター長/立教大学教授 阿部 治

三隅さんは、北九州市のESD推進に大きく寄与されたことから、平成31年2月、まちづくり功労者として「北九州市表彰」を受賞されました。



北九州ESD協議会顧問
(前副代表・運営委員長)
三隅 佳子さん

平成31年2月9日(土)、北九州市立商工貿易会館2階多目的ホールにて、「北九州ESDフォーラム」と題し、「第1回環境首都SDGsアワード ESD表彰」の表彰式、「RCE公開フォーラム」を開催しました。

「北九州ESDアクションプラン2015～2019」に基づき、今回、市と共同で創設したESD表彰に、38件という多くのご応募をいただきました。光栄なことに、市外の有識者等からなる選考委員の方々からは、多くの市民が質の高い活動を継続していること、北九州地域での産学官民にわたるESDの浸透力について、高い評価をいただきました。選考過程では、「選考結果に関わらず、どの活動にも継続してもらいたい」という熱いコメントをいただきながら、栄えある第1回目の受賞者が決定されました。今後も同表彰制度を活用し、「SDGs達成のための人材育成・ESD」をさらに盛り上げていきたいと思えます。

なお、当日は、国内のRCE関係者をお迎えし、後半は、「RCE公開フォーラム」として、国連大学サステナビリティ高等研究所プロジェクトディレクターの瀧口博明氏による基調講演と、九州地方ESD活動支援センター澤克彦氏によるワークショップを行いました。ESDやSDGsについて、市内外の参加者がともに学び合う貴重な機会となりました。



12月21日(金) ～調査研究・国際プロジェクト～ インジェ高校生と北九大三宅ゼミとの交流

北九州市立大学政策科学科三宅ゼミや他ゼミの学生が実施しているプロジェクトの中に藍島プロジェクトがあります。

小倉の渡船場から35分で玄海灘に浮かぶ島、最近では猫の島として有名である藍島に到着します。そこに、インジェ高校生と一緒に大学生が出かけました。

高校生達は寒いのに慣れているのか、屋上デッキで冬の日本海の潮風に吹かれるのを楽しんでいました。インジェ郡は山の中にあるので、寒くても海は珍しく楽しいに決まっています。

到着後、待合室付近の猫と戯れ、北端にある千畳敷を目指しました。あいにく、満潮状態で、干潮時に顔をのぞかせる平坦な岩の千畳敷を見ることはできませんでしたが、浜辺では冷たい水に触ったり、貝殻を拾ったりしていました。また、少量ながらも漂着ゴミを拾い、ビーチクリーニングを行いました。

大学のキャンパスに帰り、2年生と一緒に、教室でフォトフレーム作りを楽しみ、少し早いクリスマスを祝いました。ちなみに、全員が口にしたシュークリームは私の差し入れで、ささやかなプレゼントです(笑)。大学がないインジェ郡の高校生たちに日本の大学の雰囲気や少しでも味わってもらいました。心にどう映ったのでしょうか?

調査研究・国際プロジェクト 北九州市立大学教授
三宅 博之

～ESD ツキイチの集いカレンダー～

- 6月 ミンダナオ子ども図書館(MCL)松居友さんによる講演
- 7月 「エコな商店街」をもっと発信しませんか?
- 8月 うけつごう、平和のバトン
- 9月 未来を生きる私たちSDGsで環境問題について考えよう
- 10月 エコなものでハロウィングッズを作ろう
- 11月 賢い選択COOLCHOICEゲームin小倉
- 12月 平成最後の大掃除!
- 1月 ひろげよう、つながりの輪
- 2月 Q.あなたはストレスとどう関わっていますか?
- 3月 幸せ探しの旅



7月 カードゲーム「2030SDGs」



8月 八幡大空襲体験者の講話

～イベントプロジェクト × 街ゼミ～

第11回魚町得する街のゼミナールとコラボレーションしSDGsやESDをテーマにした講座を行いました



- 11月10日 「ペットボトルで風車づくり」 若松秋桜会 久永 恵美子さん
- 11月11日 間伐材で箸づくり 霧丘中学校 小川 亮さん
- 11月18日 廃油石鹸づくり 地球温暖化を考える北九州市民の会 秋枝 博子さん・ESDプロモート実習生
- 11月24日 色々なおにごっこ(クッパ) 私たちの環境未来プロジェクト 池本 真一さん
- 11月25日 エコな箱作り 北九州市環境学習サポーターの会 上永 陽一さん

平成30年度「環境首都北九州SDGsアワード ESD表彰」受賞者

賞の種類	活動名	団体名
最優秀賞	econnect project(エコネクト プロジェクト)	北九州市立霧丘中学校 特別支援学級
優秀賞	人物多様性や協働を背景に、生物多様性保全やSDGs推進を見据えて全国の水環境と向き合う北九州・魚部	NPO法人 北九州・魚部
優秀賞	竹が創出する住み続けたい地域～竹を使った環境・健康・産業の3本の矢による“北九州らしさ”の創造～	NPO法人 北九州ピオトップ・ネットワーク研究会
優秀賞	環境ボランティア“輝く未来は今ここから私から!”	若松秋桜会
特別賞	リサイクルトレイトペーパー「北九州紙えこっパー」による“もったいない”を未来に引き継ぐ事業	公益財団法人 北九州活性化協議会
奨励賞	主体的に学び、持続可能な社会を創造できる児童の育成を目指した環境教育	北九州市立曾根東小学校
奨励賞	フードバンク活動を通して食料支援から包括的支援につなぎ、子どもの貧困の連鎖を断ち切ることを目指す北九州市モデル構築事業	NPO法人 フードバンク北九州ライフアゲイン

参加者アンケート結果

- 北九州の市民力のすごさを感じた
- 市民・企業・行政の力を合わせて北九州らしいSDGs2030の目標達成に向けて活動を広めたい
- 目からうろこの会議に参加でき、自分自身の身長が一と伸びたと感じた
- RCE間の連携を深めたい
- ワークショップによるアウトプットは有益だった

RCE活動報告

国内RCE実務者会議

(平成31年2月9日(土)午前中、まなびとESDステーション)
7つのRCE関係者が一堂に会し、各地域の活動内容や、ESD活動支援センターの動きなど、ESDを取り巻く様々な情報が共有されました。
また、RCEネットワークを活かした海外との連携の必要性や、国内各RCEの連携強化と、それによる各地域におけるESDの深化に対する期待について、熱い議論が繰り広げられました。

RCE日本ユース会議

(平成31年2月10日(日)、まなびとESDステーション)
ESDにおけるユースの役割の重要性から、国内のユース活動のネットワーク形成を後押しするため、国連大学サステナビリティ高等研究所が企画開催したもので、RCE北九州からも、「ESDプロモート実習」「グリーンバード北九州」が参加しました。
国内のRCEから19名のユースとRCE関係者・国連大学などを含む総勢40名が集まり、初対面のメンバーとは思えない連帯感が会場を包み、様々な意見が飛び交いました。

～第19回 日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)～ 北九州市開催

平成30年10月6日(土)～10月8日(月)、「多様な主体による持続可能な地域づくり～SDGsの達成に向けて～」をテーマに上記シンポジウム等が開催されました。同協議会も一連の様々な行事に参画し、日中韓の代表者総勢約40名と交流しました。

※TEEN=Tripartite Environmental Education Network



10月6日のレセプションで、北九州市での食品ロス削減の取り組みを紹介させていただきました。実は韓国では、日本より先に政府主導でフードバンク事業が進んでおり、関連法案もあります。今回はどのレベルで話題提供をするか悩みましたが、結果、民間組織(NPO法人)が食品ロス削減に取り組む中での実情や課題をお話しました。英語での表現には苦戦しましたが勉強になり、国内外の環境教育の専門家の方々とも議論ができて大変良い機会となりました。

NPO法人フードバンク
北九州ライフアゲイン
八百屋 さやか



TEENでは、私たちの活動について英語で発表する機会をいただきました。発表後、たくさんの方からお声かけいただき、海外の方々に私たちの活動を知ってもらえることが出来てとてもよかったです。海外の方々と関わる機会はなかなかないので、私たち自身とても貴重な経験をさせていただきました。今後とも、活動の幅を広げ、たくさんの方々に私たちの活動について知ってもらえるよう、日々活動に励んでいきたいと思っております。

北九州市立大学
ESDプロモート実習2年
児玉 佳菜子



TEEN開催にあたっては、協議会の皆様にご協力をいただき、本当にありがとうございました。開催後、TEEN関係者から、市民や学生などESDを推進する人材が豊富で、一連のTEEN行事に市民が関わっていることに対して高い評価をいただき、北九州のESDを国内外の専門家に知っていただくとても良い機会になりました。

北九州市環境局環境学習課
原口 壘華

第19回「日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)」のレセプション、施設見学等で使われる縦60cm、横を繋げると長さ4メートルになる看板の制作を行いました。参加して下さった高校生、大学生に看板の文字の塗装・装飾をしてもらいました。装飾には創造館クリエイティブハウスで障がいをもつ方々によって作られた「さをり織り」や、木の枝、トイレトーパーの芯で作った花飾りを使用しました。皆様のおかげで「市民の力」によって和気あいあいとした看板が出来上がりました。

北九州市立大学
ESDプロモート実習2年
小緑 康予



TEENでは、初日のレセプション会場で、布絵シアターの展示と紹介をさせていただきました!

本会は、日本環境教育学会の学会長である諏訪哲郎先生を中心に活動している日中韓環境教育交流会の常連として、中韓の方々との交流を10年以上重ねていることもあり、言葉の壁を超えて楽しくわかりやすく伝える事をモットーに活動しています。これまで参加していただいた阿部先生など、皆で場を盛り上げて頂き、北九州の生物多様性を伝える事ができたかなと思っています!

北九州インタープリテーション研究会
原賀 いずみ



TEENシンポジウムを共催
(北九州ESD協議会 近藤代表による発表)

～ご協賛ありがとうございました～

株式会社 安川電機 様、 楽しい株式会社 様

この度、北九州まなびとESDステーションの運営等に対し、上記2社様より、協賛金をいただきました。当協議会が進める、地域の未来を担う「人づくり」にご賛同いただきましたことに、厚く御礼申し上げます。※この「未来パレットだより」は、公益財団法人 タカミヤ・マリバー環境保護財団 様のご支援をうけて制作されています。

～第11回アジア太平洋RCE地域会議～

第11回アジア太平洋RCE地域会議に参加して

2018年9月25日から27日、オーストラリアのシドニーで行われた第11回アジア太平洋RCE地域会議に参加しました。前日には、初めての「アジア太平洋ユース・バーチャル・サミット」が開催され、各地域のユースのメンバーがそれぞれの活動についてテレビ会議システムを利用して発表しました。本会議にはインド、フィリピン、インドネシア、マレーシア、韓国、日本、中国、ニュージーランド、オーストラリア各地のRCEから84名が参加し、「SDGs主流化:教育と影響」をテーマに、RCE間の連携を強め、各RCEのESDに関する活動の成功例を紹介することを目的として、発表、討論、ワークショップ、フィールドトリップ等が実施され、私は北九州ESD協議会と韓国のRCEトヨンやRCEインジェとの交流について発表しました。参加者の方々から多くのことを学ぶとともに友情を深められたことに感謝しています。

北九州ESD協議会 調査研究・国際プロジェクト 塚本 美紀



おしゃべり工房～ざっくばらんにESD～

これまで、北九州市がESDの活動を推進していくために、地域の拠点施設である市民センターの活用が重点項目に掲げられ、市民センターの館長が、ESD活動のコーディネーター役として、地域とかがわるための研修プログラムも、環境学習課とESD協議会とが実施してきた経緯があります。本プロジェクトでは、2017年から「おしゃべり工房」というネーミングの交流会を開催しながら、異業種の人々が交流できる場を提供してきました。これまで5回してきたスタイルとしては、毎回開催する市民センターを変えて、センターの館長や従事者、ESD協議会加盟団体の活動者を中心に、ESD活動に関心のある方々20～30名が集っています。ゲストスピーカーの活動紹介や、開催地の市民センターおよび地域の紹介のあとは、参加者全員の自己PRタイム。カフェスタイルで名刺交換をしながら、ざっくばらんに交流の輪を広げていけるフリータイムでは、賑やかに会話が弾み、あっという間にお開きの時間という盛況ぶりです。新たなフィールドを求めている活動者と、地域課題の解決に挑む市民センター従事者とが繋がる機会として回を重ねていきます。ぜひ一度のぞいてみませんか?

北九州ESD協議会 人材育成・発掘プロジェクト
渡辺 いづみ



H30年11月27日(火) 則松市民センター